○○温泉（温泉利用施設名称）

温泉の成分

1　源泉名

2　泉　質

3　泉　温

4　温泉の成分（試料 1kg 中）

pH：

(1)陽イオン		(2)陰イオン	
成分名	ミリグラム(mg)	成分名	ミリグラム(mg)
陽イオン計		陰イオン計	

(3)遊離成分					
非解離成分	成分名	ミリグラム(mg)	溶存ガス成分	成分名	ミリグラム(mg)
	メタけい酸			遊離二酸化炭素	
	メタほう酸			遊離硫化水素	
	メタ亜ひ酸				

※溶存物質（ガス性のものを除く）：　g/kg

(4)その他微量成分	
成分名	ミリグラム(mg)

5　温泉分析年月日

6　登録分析機関の名称及び登録番号

禁忌症・適応症・飲用上の注意

1　含有成分別禁忌症

2　飲用の方法及び注意

ア．飲泉療養に際しては、専門的知識を有する医師の指導を受けること。また、服薬治療中の人は、主治医の意見を聴くこと。

イ．15 歳以下の人については、原則的には飲用を避けること。ただし、専門知識を有する医師の指導を受ける飲泉については例外とすること。

ウ．飲泉は決められた場所で、源泉を直接引いた新鮮な温泉を飲用すること。

エ．温泉飲用の 1 回の量は一般に 100～150mL とし、その 1 日の総量はおよそ 200～500mL までとすること。

1. 温泉に**ひ素、銅、ふっ素、鉛及び水銀並びに遊離炭酸が含まれる場合**は、この記載に加えて、別に定める方法により飲用量を示すこととする。
2. **温泉がpH3未満である場合**（希釈が行われ、飲用に供する温泉がpH3以上になっている場合を除く。）は、この記載に代えて、例えば「この温泉の液性は酸性であるため、真水でpH3以上となるようおおよそA倍に薄めた上で、飲用の1回の量は100mLまでとし、その1日の総量はおよそ200～500mLまでとすること。」とする。
なお、Aの数値は、pHにより異なるため、pH3以上となるように具体的希釈倍率を算出して記載すること。

オ．飲泉には、自身専用又は使い捨てのコップなど衛生的なものを用いること。

カ．飲泉は一般に食事の30分程度前に行うことが望ましい

キ．飲泉場から飲用目的で温泉水を持ち帰らないこと

ク．飲用する際には、誤嚥に注意すること

（注）誤嚥とは、うがいや焦って飲むことなどにより、肺や気管に水分を吸い込んでしまうことをいう。なお、嚥下障害を発症している人は飲泉を行わないこと

5　泉質別適応症